

目次

1. 合同研修報告
 - 「トピックス研修」
 - 「新規採用看護職員リフレッシュ研修」
 - 「人材育成Ⅱ（ファシリテーション）」
 - 「セルフマネジメント」
 - 「マネジメントⅠ・Ⅱ」
 - 「看護倫理（意思決定支援）」
 - 「理論研修（中範囲理論）」
2. 研修後の看護実践
 - その②フィジカルアセスメント

『研修新聞』は
各病院HPからも見るこ
とができます。
過去の新聞も
是非ご覧ください。



倫理

公務員として行動する力
看護専門職として行動する力

看護実践能力

ニーズをとらえる力
ケアする力
協働する力
意思決定を支える力

県立病院 キャリアラダー 4つの力

組織的役割遂行能力

チームを運営する力
教える力
想像し改善する力

自己教育・研究

未来に向けて学ぶ力
経験から学ぶ力
セルフコントロール

1. 合同研修報告

トピックス研修「のぞみの花を高く掲げよ」（公開研修）

新規採用看護職員リフレッシュ研修

毎年新規採用看護職員対象に、ストレスへの対処法を知ること、意欲的に仕事を続ける活力を養うこと、自身が目指す看護師像に立ち返り今後の取り組みを見出すことを目的に開催しています。

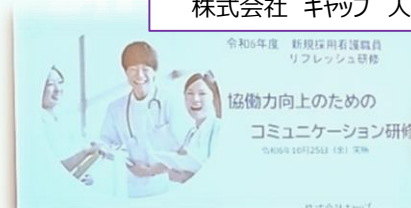
講師：伊藤 歌子 氏
株式会社 キャップ 人材育成・研修課 課長

令和6年度トピックス研修
「のぞみの花を高く掲げよ」
若者の自律性の育み方
～厳しさの中のやさしさとは～
2024年9月21日（土）



講師：小川 良樹 氏
学校法人細田学園 細田中学校・
高等学校 細田学園高等学校
バレーボール部エグゼクティブアドバイザー

もと、下北沢成徳高等学校バレー部監督の、小川先生にご講演いただきました。バレー部の生徒を育てる過程で培ったご経験から自律性と自主性を尊重しながら選手を指導する方法、選手の成長を待つ重要性、良いチームとは、チーム力を育む方法、指導者の役割と責任などについて話されました。「選手が自分で考え成長する過程を楽しめるように導くこと」「できたことに対しては褒め、うまくいかなかったことに対しては、なぜうまくいかなかったのかを自分たちで考え、次の行動変容に繋げることができるよう導くこと」「ミスがないようにすることが厳しさではない。一つひとつのことを丁寧にやり続けること。手を抜かないでいくことを徹底していくことが厳しさなのである」「教え子個々の先をみて、いかに成長を待てるか。結果をすぐに求めてはいけません。自分の満足であってはならない」私たち看護職にも通ずる部分があると思います。



レジリエンスやアサーティブコミュニケーションについて学びました。「自分自身の考え方や物事の捉え方の傾向を知ることができた」「DESC法を活用し相手に伝わるような報告・相談を心掛けたい」という声が聞かれています。

今治病院看護部長及び先輩職員の講話では、看護観が刺激されるとともに、今後のキャリアについて考えたり、モチベーションアップにも繋がっていました。





講師：浦山絵里氏
ひとづくり工房esuco代表

看護チームにありがちな、こうあるべきという「べき論」に囚われすぎると、協働するチームができなくなる。チームとして活動するためには、目的を共有し、協働できることが大切。それぞれの役割において、自分の体験を共有し、そこから生まれる**気づき**をもとにさらに**学び合う場**がカンファレンスや対話の場である。大切なのは、「どう協働できるか」を**話し合えるチーム**であるかどうかであり、話し合いを作る方法がファシリテーションである。＜講義内容より＞

- 対話の場をつくるファシリテーションの5つのスキル
- ①場づくり
 - ②グループサイズ
 - ③問い
身近で具体的な本人の体験や裁かれない問から順に
 - ④見える化
紙やホワイトボードの活用
 - ⑤プログラムデザイン
プロセスと時間を管理する
学び合う場のつくり方
岩波書店 中野民夫



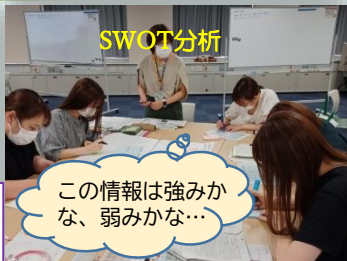
KP法によるカンファレンスを体験

カンファレンスや会議などで活用してみよう！

マネジメントⅠ・Ⅱ：チームを運営する力/想像し改善する力



講師：山下まゆみ氏
NPO法人病院経営支援機構 アソシエイト



SWOT分析

この情報は強みかな、弱みかな…

マネジメントⅠ研修



SWOTクロス分析

優先度が高い経営課題は…

マネジメントⅡ研修

二次元展開法

マネジメントⅠでは、リーダーシップを発揮しチーム運営で成果を上げること、マネジメントⅡでは、マネジメント力を発揮し部署や組織の課題を明らかにし変革に取り組むことを目的に、参考図書に対する意見交換や、架空病棟の事例分析を通して、リーダーシップとマネジメントについて学びました。

受講生からは、「内容は難しかったがそれぞれの立場で部署目標を考える際に活用したい」という声が聞かれています。

理論研修（中範囲理論）：ニーズをとらえる力



講師：武田千津氏
中央病院がん看護専門看護師

「いしけってい」とは、意思と意志の違いや様々な意思決定の在り方、意思決定と倫理について、意思決定する4つの構成要素、意思決定支援について、事例検討しながら学びました。

【臨床における意思決定とは】

- ・患者・家族は治療や療養の**意思決定を繰り返し行っていく**
- ・患者・家族と医療従事者の対話を前提とする相互理解の過程
- ・どうする（したい）かを明確にすること【結果】よりも、そう決めるに至ったこと【過程】【価値】が重要
- ・意思決定の繰り返し・積み重ねが、患者自身がどう生きたいかを実現していくプロセスであり、患者が病気や障害とともに自分らしく生きていくことにつながる



受講生からは、「看護師としての役割を考え直すことができた」「患者や家族と、気持ちを吐き出してもらえるような関係性をつくり、日々看護をしていきたい」「その人らしさを尊重し関わってほしい」などの声が聞かれており、看護師として患者さんやご家族に対し、日常の中で、どう支援するべきか考えることができたようです。



講師：下山節子氏
NPO法人看護キャリア開発センター 代表

看護実践に活かす中範囲理論について学びました。講義の中で講師は次のように話されました。

「理論は現場に振り回されないためのものさしである。理論は現象理解のために人が作ったものであり、使うものである。目の前にいる患者さんに対してどんな介入をしたらよいかを決めるには、いくつかの理論の中から患者さんを系統立って理解するための理論を選び出す必要がある。理論は、事実として見えてきたものの意味を知るためにある。患者さんの行動や言葉、しぐさなどの反応が、何を意味しているのかの解釈や推測に意味を与えてくれる。まずは患者さんの話をよく聞くことから始まる。アセスメントが空洞化すると看護師のやりたい看護になってしまうため、看護師は患者さんの話を聴き、患者さんの反応に気づくことが大事。」



受講生からは、「看護とは何か原点に返り患者さんの思いを傾聴することの大切さ、一方的ではなく患者参画の看護の必要性を考え直すことができた」という声が聞かれています。

「実践なき理論は空虚であり、理論なき実践は無謀である」
(ピーター・ドラッカー)

2.研修後の看護実践 その②フィジカルアセスメント

新居浜病院

フィジカルアセスメント
フォローアップ研修

新居浜病院編

現任教育委員会が合同研修前後のフィジカルアセスメントフォローアップ研修を企画！！

フィジカルアセスメント前
フォローアップ研修
(7月8日開催)

合同研修
(7月30日
9月2日)

合同研修後フォローアップ研修
9月～11月で現場学習
支援者とペアで認定看護師による現場
学習を実施
3事例のレポート提出

フィジカルアセスメント後
フォローアップ研修
(1月開催予定)

合同研修Ⅰ・Ⅱの参加者10組がペアで現場学習に臨み、直接、集中ケア認定看護師の支援を受け学びを深めています。
受講生と支援者が共に学習する事で、新居浜病院看護師全体の看護の質向上を目指します。3事例のレポートを提出するため大変ですが、繰り返し実践することで、研修の目標が達成できることを期待します。

集中ケア認定看護師



集中ケア認定看護師

研修受講生
2年目看護師

初めて対応する疾患であり
観察項目がわからなかった
けど、フィジカルアセス
メント技術を活用し、
系統立てて考えること
ができました



支援を受けている
場面を観察し、観
察方法や支援内容
をフィードバック
しています



腸蠕動音は
どう？



<症例編受講生>

研修で学んだ観察の視点や問診を意識し、既往歴などを含めて病態と結び付けてアセスメントができるように指導しています。根拠のある指導ができるように自分自身も学習し、成長に繋げています。

<基礎編受講生>

研修で学んだ観察方法などを実践しながら不足している情報や今後予測されること、必要なケアは何かを考えています。自分ひとりで判断できないことや悩んだときは先輩に相談できるので安心しています。

<救急看護認定看護師>

救急看護認定看護師も研修後のフォローでフィジカルアセスメント基礎編受講生と一緒にラウンドを行います。第一印象の観察、系統立てた観察、アセスメントを通して、患者の状態を正しく評価することができるスタッフを育成するため、現場でのOJTに日々取り組んでいます！



呼吸音に異常
はないかな？

部署では、フィジカルアセスメント基礎編と症例編に参加した受講生と一緒に患者を観察する機会を増やすために、勤務を調整してくれています。



4東病棟



外来

シミュレーション中、グループメンバーの中には第一印象だけでなく、既往歴など患者の背景を考えて観察していました。自分に不足していたところが明らかになり、さまざまな方向から観察する方法を学び、実践に活かしています。

患者さんの観察を実施する際、まず、ショック兆候を観察するところから始められるようになりました。バイタルサインだけでなく、アセスメントを意識した患者の観察を行えるようになり、スキルアップに繋がっています。

中央病院

19部署から34名の看護師がフィジカルアセスメントⅡ（症例編）研修を受講しました。今回、研修後の自身の看護実践および後輩支援（基礎編受講生）の現状について受講生に聞き取りを行いました。

Q. 研修での学びが自分の看護実践に反映できているか

- ・第一印象やショック兆候の観察を行い、緊急性を判断することで、どのような対応や看護をするべきか次に繋がれるように実践している。
- ・フィジカルアセスメントの視点から得た情報を基に、医師や薬剤師とカンファレンスすることが増え、多職種協働に繋がっている。
- ・状態変化のある患者の看護記録を行う際に、学んだ内容を意識して記録に残したり、観察項目が不足していたら追加したりできている。SOAP記録も意識して記載できるようになった。
- ・普段から聴診を行うようになった。それにより、患者の状態変化（悪化も改善も）に気づけるようになった。周りのスタッフにも真似て実践してみようという変化があった。
- ・自分のアセスメントに自信を持って、他者に伝えられるようになった。

Q. 基礎編受講生への支援のポイントはどこだと考えたか

- ・お互いに学びを深められる機会であることを認識し、指導する・されるという立場ではなく、お互いに学ぶという姿勢で学習を進める。
- ・思考発話を用いながら自分の看護も言葉にして伝える。
- ・理解できているところは褒め、知識が不十分な部分はその場で考えてもらい、知識を段階的に深める。
- ・研修資料や共通の参考書を用いて学習や振り返りを行う。
- ・患者の状態と一緒に観察する。なんでも相談しやすいように精神面にも配慮する。

Q. 支援後、基礎編受講生にどのような変化があったか

- ・記録上も看護師間の会話での情報共有時も根拠を持ってアセスメントできていると感じることが増えた。
- ・観察からのアセスメントを自ら報告することや一緒に観察してほしいとリクエストすることができるようになった。
- ・以前は業務優先傾向にあったが、症状から根拠をもって観察するように意識が変わってきた。
- ・観察に関する報告が増えた。アセスメントからどう看護ケアを提供したいか考えが伝えられるようになってきた。

<ラウンド担当者（現任教育委員会）より>

受講生のSOAP記録を実際に確認し、フィジカルアセスメントの視点で具体的な記録ができていました。また、急変時だけでなく、気になる症状がある時にもしっかりと記録に残すことができています。中には、実践ではフィジカルアセスメントを意識できているのに、記録に示すことができていない受講生も見られました。実践は看護記録でしか証明できないので、しっかりとSOAP記録に残しましょう！



【編集後記】

つんとした冷たい空気にひんやりとした風。夜空を見上げると星々たちも輝きを増し、冬の訪れを感じるこの頃、皆様体調はいかがでしょう。今年の研修新聞では“実践”をキーワードに、研修後の受講生や部署の支援を紹介しております。多くの受講生が学びを実践に活かし頑張っています。研修を受講した多くの皆様に、冬の星たちのように光り輝いてもらえることを願っています。次月号は3月発行予定です。（毛利友香）